

令和6年度 北海道羽幌高等学校 学校関係者評価票

A: 十分である＝4点 B: 概ね十分である＝3点 C: 不十分である＝2点 D: 改善を要する＝1点

領域	評価の観点	保護者評価(66名回答)			教職員達成状況(20名回答)			自己評価(教職員)	学校関係者評価(5名回答)		
		R06	R05	R04	R06	R05	R04	改善に向けた取組	自己評価の適切さ	改善に向けた取組の適切さ	ご意見
学校運営	組織運営	1 本校の学校教育目標や教育実践は、生徒の実態や保護者・地域住民の願いを踏まえたものとなっている。	3.22	3.03	3.35	3.30	3.20	3.28	3.80	3.80	・今後数年の間で、羽幌高校の入学者数の展望はどうなっているのか？
		2 育成を目指す資質・能力を踏まえ、学校内外の教育資源を活用した教育活動が実践されている。	3.23	3.09	3.30	3.50	3.20	3.44	3.60	4.00	
		3 前年度の学校評価や反省事項に基づいて、教育活動の改善を適切に行っている。	3.10	2.97	3.15	3.45	3.07	3.11	3.80	4.00	
	生徒と教職員の関係向上	4 信頼される学校づくりに向けて、交通法規等の法令遵守や体罰防止など服務規律の保持及び危機管理に努めている。	3.29	3.14	3.35	3.80	3.40	3.44	4.00	4.00	・今の保護者の捉え方で、子どもたちの話をストレートに聴き取りにしてしまっている傾向はあるか？ ・遅くまで残って業務をされている先生方に感謝いたします。
		5 研修を積極的に推進し、実践的指導力の向上に励み、資質向上に努めている。	3.22	3.06	3.00	3.80	3.67	2.89	4.00	3.60	
		6 組織的な取組により、業務改善への意識を高めている。	3.11	2.97	3.05	3.20	3.13	3.06	3.80	3.40	
		7 効率的な業務の精選・遂行とそのスケジュール管理に努めるなどとして、「働き方改革」を進めている。	3.11	2.96	3.00	3.15	2.67	2.78	4.00	3.40	
教育活動	教務	8 学習シラバスを活用した授業展開や観点別評価により学習評価を適切に行い、主体的・対話的で深い学びの観点からの授業改善を図っている。	3.25	2.97	3.30	3.30	3.20	3.11	4.00	4.00	・ICT活用の状況は？ ・観点別評価は生徒にとってメリットに感じているか？
		9 知識・技能の習得に加え、教科横断的に思考力や判断力、表現力などの活用学力を育む授業を実践している。	3.25	3.00	3.24	3.50	2.93	3.06	4.00	4.00	
		10 自主的・意欲的に学習（特に家庭学習）に取り組む習慣を身に付けさせる工夫・取組を行っている。	3.08	2.87	2.95	3.20	2.87	2.72	3.60	3.80	
		11 一人一台端末を活用した個別最適な学びと共同的な学びの実現に向け、教育活動でICTや情報ツール、情報資源の活用を推進している。	3.29	3.03	3.24	3.55	3.47	2.78	3.80	4.00	
	総務	12 Webページやメール配信、各種通信等で本校の教育活動を外部に積極的に発信している。	3.34	3.31	3.57	3.55	3.47	3.44	3.20	3.80	・多忙の中、魅力発信を頑張ってもらえると生徒募集につながることも、卒業生たちも活気がある母校に安心できる。 ・PTAとの関わりを持てる機会があるか？
		13 学校行事の公開や地域の行事等への参加を通して積極的に地域や関係機関・他校等との連携に取り組んでいる。	3.31	3.21	3.33	3.25	3.27	3.33	4.00	3.40	
		14 学校とPTAの連携が十分に図られ、PTA活動も充実した取組になっている。	3.07	2.93	3.05	2.60	3.27	3.28	4.00	3.00	
	生徒指導	15 いじめ防止に向けた校内体制が確立されており、日常から生徒の状況把握及び未然防止・早期発見に努めている。	3.08	2.97	3.14	3.50	3.47	3.61	3.80	3.20	・いじめ発生が起きた際の対応は適切に感じた。「いじめ見逃しゼロ」が徹底されることを望む。 ・ボランティア活動は以前よりも簡単に実施できなくなったと聞き、他校種との協働も難しいと聞いた。もっと気軽にできるものはないだろうか。
		16 学校行事や部活動等を通して生徒が自ら考え仲間と協働する力を育んでいる。	3.38	3.23	3.71	3.70	3.47	3.67	3.60	4.00	
		17 ボランティア活動等の地域と連携した活動を通して自尊感情や自己有用感の高揚を図っている。	3.22	3.13	3.24	3.05	2.67	3.06	3.20	4.00	
		18 多様な生徒の特性や悩みを理解し、カウンセリングや特別支援教育体制の充実を図り、サポート委員会など校内体制の確立と関係諸機関との連携に努めている。	3.13	2.90	3.19	3.55	3.27	3.61	3.80	3.80	
	健康安全	19 各教科の授業や各種教室・講演会等を通して命や健康・安全の大切さを指導している。	3.17	3.13	3.33	3.45	3.33	3.50	4.00	3.60	・資格取得の状況は？ ・DX/ハイスクール事業の進捗状況と成果は？
		20 生命尊重の精神を養い、家庭との連携を深めながら、健康の保持増進に努めている。特に交通ルールやマナー指導を徹底し、交通安全に対する意識の高揚に努めている。	3.14	2.94	3.19	3.30	3.27	3.50	3.60	4.00	
	進路指導	21 生徒の自己実現に向け、3年間を見通した組織的・体系的な進路指導（キャリア教育）を行っている。	3.20	2.97	3.43	3.50	3.20	3.22	3.80	3.80	・進路実績はこの学校規模で頑張っていると感じる。先生方のリードもあると思うが、生徒たちの頑張りが結果として出ている。ぜひ継続してほしい。
		22 収集・分析した進路情報を進路ガイダンスや保護者説明会などを通して生徒や保護者に適切に提供している。	3.23	3.07	3.10	3.65	3.57	3.22	4.00	3.80	
		23 生徒個々の良さや可能性を引き出し、各種の資格取得を目指し、一つ上の進路目標や将来の生き方、人生設計を育む態度を育成している。	3.19	3.01	3.24	3.45	3.40	3.39	4.00	4.00	
	道徳教育	24 教科等横断的な視点により学校教育全体で道徳教育に取り組んでいる。	3.11	3.03	3.19	3.00	2.60	3.00	3.60	3.60	・地域人材を生かして探究活動を実践してほしい。力になれる場面があれば連携する。
		25 地域の人材や関係諸機関と連携した道徳教育に取り組んでいる。	3.13	2.99	3.19	2.90	2.73	3.06	3.80	3.80	